

＊本欄の記事は各社公式サイト等から抜粋

◇「建設キャリアアップシステム」の普及に向けた取り組みを促進 竹中工務店／6 月 14 日付け

竹中工務店は、現在、「建設キャリアアップシステム」(以下、CCUS) への協力会社、技能者の登録を促進している。今回、協力会社と施工情報の共有に採用しているシステム「WIZDOM」が、CCUS とのシステム連携の認定を取得した。これを受け、全作業所での技能者の就業履歴を登録できる環境を年内中に整備することで、CCUS の普及に向けた取り組みを推進する。これにより技能者の処遇改善、竹中工務店及び協力会社の双方での作業所管理の効率化につなげる。

◇「機関投資家、アナリスト向け見学会」を開催 大林組／6 月 24 日付け

大林組は、株主を含む機関投資家や証券アナリストに業績や事業活動などへの理解を深めてもらうため、決算説明会や個別ミーティング、年 2 回の現場見学会などを行っている。

2019 年 3 月 22 日に、大林組の大株主を含む機関投資家と証券アナリストを対象に見学会を開催した。同日は大林組技術研究所(東京都清瀬市)で、最新の配筋検査システムや 5G を用いた建設機械の遠隔操作システムのデモンストレーションを、27 日には東京都内で建設中の大型シールド工事の現場を見学した。

◇大成建設の BIM 規格を応用技術が「BooT.one」として提供開始 大成建設／6 月 24 日付け

大成建設と、応用技術は、Autodesk Revit ユーザに向けたアドインパッケージ「BooT.one」を 7 月 1 日より提供開始した。

BIM の普及が高まる昨今、各社の BIM 標準化は、従来の 2 次元 CAD の成果物と同等の成果物を作成することが重要視されている。これは BIM 本来の利点である整合性をもった情報生成を阻害する要因となっており、BIM の普及に影響を及ぼしている。一方、整合性を保った理想的な運用を目指す場合も、Revit のモデリングや設定の煩雑さが課題となり、利用者のスキルに依存する運用となっている。

今回提供する「BooT.one」は、個人のスキルに依存することなく、同じルールで整合した BIM モデルと図面の作成を目的として、大成建設内で長年にわたって開発・運用されてきたノウハウを、広く Revit ユーザに提供。これにより Revit ユーザの生産効率を大幅に向上することが可能になる。

◇「AR 技術で作業所の安全確保と省力化」を実現 戸田建設／6 月 28 日付け

戸田建設は、先端的 ICT 技術を活用して、これまで作業所の安全確保と生産性向上を実現してきたが、今回、タブレット端末上で建機の 3 次元(3D)モデルと実際の建設工事現場の映像を重ね合わせて表示出来るシステム「建機 AR」を開発した。

このシステムを用いると、建設機械を設置した際の建機周辺の状況や建機稼働時の危険箇所等を視覚的に確認することができる。そのため、建機の配置計画に掛かる時間と労力の削減を図ることができ、さらに、作業員とのイメージ共有が容易となるため、建設現場の安全確保にも繋がる。

◇建設現場の IoT 化に対応した通信環境を簡便に構築する多機能分電盤「ノアキューブ」を開発 大林組／7 月 5 日付け

大林組は、IoT 化が進む建設現場において設置するだけで通信環境を簡便に構築でき、安全や省エネにも貢献する多機能分電盤「ノアキューブ」を開発し建設現場に導入した。

建設現場では、生産性、安全性の向上やさらなる省エネの推進に向け、ICT や、人やモノの状態が見える化で

＊本文、後略